

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	短期大学の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウジツシン メジロウケン 学校法人 目白学園									
フリガナ大学の名称	メジロウイダクケンキョウイダク 目白大学短期大学部 (Mejiro University College)									
大学本部の位置	東京都新宿区中落合4丁目31番1号									
大学の目的	教育基本法及び建学の精神「主・師・親」（「主」は国家、社会への献身的態度、「師」は真理探究の熱意、「親」は人間尊重の精神）に基づき、創造的な知性と豊かな人間性及び応用的諸能力をそなえ、わが国の発展、国際社会の平和と福祉に貢献する主体性のある人材の育成を目的とする。									
新設学部等の目的	大学の目的を踏まえ、歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材を育成することを目的とする。なお、本学科の設置に伴う短期大学全体の収容定員の変更はない。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	歯科衛生学科 [Department of Dental Hygiene] 計	3年	60人	—年次人	180人	短期大学士 (歯科衛生学)	平成31年4月 第1年次	東京都新宿区中落合 4丁目31番1号		
	同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	目白大学短期大学部 生活科学科(廃止) (△75) ※平成31年4月学生募集停止 製菓学科[定員減] (△15)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	歯科衛生学科	39科目	10科目	10科目	59科目	103単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
	新設分	歯科衛生学科	6人 (6)	1人 (1)	2人 (2)	3人 (3)	12人 (12)	3人 (3)	22人 (22)	
		計	6 (6)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	12 (12)	3 (3)	— (—)	
	既設分	製菓学科	2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	3 (3)	34 (34)	
		ビジネス社会学科	3 (3)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	2 (2)	24 (24)	
計		5 (5)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	5 (5)	— (—)		
合計		11 (11)	5 (5)	6 (6)	3 (3)	25 (25)	8 (8)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		5人 (5)		3人 (3)		8人 (8)			
	技術職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
	図書館専門職員		1人 (1)		0人 (0)		1人 (1)			
	その他の職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
	計		6人 (6)		3人 (3)		9人 (9)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	目白大学と共用				
	校 舎 敷 地	0.00㎡	23,095.99㎡	63,800.16㎡	86,896.15㎡	目白研心中学校 (取定300人) 目白研心高等学校 (取定780人) <校地設置基準> なし				
	運 動 場 用 地	0.00㎡	13,351.00㎡	13,800.00㎡	27,151.00㎡	<運動場設置基準> なし 中学 4,600㎡ 高校 8,400㎡ 計13,000㎡				
	小 計	0.00㎡	36,446.99㎡	77,600.16㎡	114,047.15㎡	<校舎設置基準> 中学 2,400㎡ 高校 4,400㎡ 計6,800㎡				
	そ の 他	0.00㎡	0.00㎡	1,877.06㎡	1877.06㎡	借地面積 1,884.66㎡ 借用期間 平成59年11月迄				
	合 計	0.00㎡	36,446.99㎡	79,477.22㎡	115,924.21㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	目白大学と共用				
		3,443.19㎡ (3,443.19㎡)	41,961.86㎡ (37,626.00㎡)	37,382.32㎡ (37,382.32㎡)	82,787.37㎡ (78,451.51㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	目白大学と共用				
	81室	43室	57室	16室	2室					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数	目白大学と共用				
		歯科衛生学科			8 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	目白大学と共用 (学部単位での 特定不能なため、 大学全体の数)		
	歯科衛生学科	394,158 [34,051] (367,500 [33,251])	1,179 [277] (1,171 [277])	185 [185] (177 [177])	12,463 (12,250)	0 (0)	0 (0)			
	計	394,158 [34,051] (367,500 [33,251])	1,179 [277] (1,171 [277])	185 [185] (177 [177])	12,463 (12,250)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			目白大学と共用		
		4393.13㎡		708	297,445					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				目白大学と共用		
		4636.7㎡		テニスコート						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	目白大学と共用
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	-千円	-千円	-千円	
		図書購入費	486千円	240千円	240千円	240千円	-千円	-千円	-千円	
	設備購入費	106,446千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,475千円	1,200千円	1,200千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私学事業団経常費補助金、資産運用収入、及び寄付金収入							

大学等の名称	目白大学大学院							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
国際交流研究科 国際交流専攻	2年	20人	—	40人	修士(国際学)	0.70倍	平成11年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号
心理学研究科 現代心理学専攻	2	20	—	40	修士(心理学)	0.47	平成20年度	同上
臨床心理学専攻	2	30	—	60	修士(心理学)	0.43	平成14年度	同上
心理学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(心理学)	0.33	平成16年度	同上
経営学研究科 経営学専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	0.12	平成16年度	同上
経営学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(経営学)	0.00	平成21年度	同上
生涯福祉研究科 生涯福祉専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学) 修士(保育学)	0.20	平成19年度	同上
言語文化研究科 英語・英語教育専攻	2	10	—	20	修士(英語学)	0.00	平成20年度	同上
日本語・日本語教育専攻	2	10	—	20	修士(日本語学)	0.80	平成20年度	同上
中国・韓国言語文化専攻	2	10	—	20	修士(中国言語文化) 修士(韓国言語文化)	0.55	平成20年度	同上
看護学研究科 看護学専攻	2	15	—	30	修士(看護学)	0.56	平成21年度	埼玉県和光市諏訪2丁目12番地
リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻	2	15	—	30	修士(リハビリテーション学)	0.19	平成24年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号
大学等の名称	目白大学							
大学等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
人間学部	年	人	年次人	人		倍		
心理カウンセリング学科	4	120	3年次10	500	学士(心理学)	1.13	平成12年度	東京都新宿区中落合4丁目31番1号
人間福祉学科	4	100	3年次10	460	学士(人間福祉学)	0.81	平成16年度	同上
子ども学科	4	140	3年次10	580	学士(子ども学)	0.99	平成19年度	同上
児童教育学科	4	50	—	200	学士(児童教育学)	1.22	平成21年度	同上
社会学部						1.08		
社会情報学科	4	120	3年次5	490	学士(社会情報学)	1.06	平成12年度	同上
メディア表現学科	4	—	—	—	学士(社会科学)	—	平成12年度	同上
地域社会学科	4	80	3年次5	330	学士(地域社会学)	1.11	平成18年度	同上
メディア学部						1.05		
メディア学科	4	140	—	140	学士(メディア学)	1.05	平成30年度	同上
経営学部						1.08		
経営学科	4	130	3年次5	510	学士(経営学)	1.08	平成14年度	同上
外国語学部						1.09		
英米語学科	4	80	3年次5	330	学士(英米語)	1.24	平成17年度	同上
中国語学科	4	40	—	160	学士(中国語)	0.77	平成20年度	同上
韓国語学科	4	60	—	240	学士(韓国語) 学士(韓国語教育)	1.18	平成20年度	同上
日本語・日本語教育学科	4	40	—	160	学士(日本語) 学士(日本語教育)	0.98	平成20年度	同上

※平成29年度入学定員減(△20人)

※平成30年度より学生募集停止

※平成30年度開設

※平成29年度入学定員増(10人)

	保健医療学部 理学療法学科	4	85	—	330	学士（理学療法学）	1.02 1.12	平成17年度	埼玉県さいたま市 岩槻区浮谷320番地	※平成29年度入学 定員増（5人）
	作業療法学科	4	60	—	240	学士（作業療法学）	0.99	平成17年度	同上	
	言語聴覚学科	4	40	—	160	学士（言語聴覚学）	0.88	平成18年度	同上	
	看護学部 看護学科	4	105	—	410	学士（看護学）	1.08 1.08	平成18年度	同上	※平成29年度入学 定員増（5人）
既設大学等の 状況	大 学 の 名 称	目白大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	生活科学科	2	75	—	155	短期大学士 （生活科学）	1.01	昭和39年度	東京都新宿区中落 合4丁目31番1号	※平成30年度入学 定員減（△5人）
製菓学科	2	70	—	150	短期大学士 （生活科学）	0.88	平成19年度	同上	※平成30年度入学 定員減（△10人）	
ビジネス社会学科	2	75	—	135	短期大学士 （社会経済）	1.13	平成22年度	同上	※平成30年度入学 定員増（15人）	
附属施設の概要	該当なし									

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要

(歯科衛生学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	科学的思考の基盤	人間と生物	1前	2			○			1						
		情報演習	1前	1				○				1				
		保健体育	1前	1					○							兼1 ※講義
		小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	1	0	1	0	0	兼1	
	人間と生活	ベーシックセミナー	1前	1				○		4	1	1	3			兼2 オムニバス
		心理学	1前		1			○								兼1
		英語	1前		1				○							兼1
		歯科英語	1後	1					○	1						兼1
		生命倫理学	1後	2				○			1					
		日本語表現	2前	2				○								兼1
ビジネスコミュニケーション	2後		2			○								兼2 オムニバス		
キャリアデザイン	2後		1				○	4	1	1	3			兼2		
小計(8科目)	—	6	5	0	—	—	—	9	2	2	6	0	兼7			
専門基礎科目	人と体の機能構造	解剖学・組織発生学	1前	2			○		1						兼1 オムニバス	
		生理学	1前	1			○		1							
		生化学・栄養学	1前	1			○								兼1	
		小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	2	0	0	0	0	兼2		
	構歯と口腔機能の	口腔解剖学	1前	2			○									兼1
		口腔生理学	1後	2			○		1							
		口腔生化学	1後	1			○		1							
		小計(3科目)	—	5	0	0	—	—	2	0	0	0	0	兼1		
	復立疾病の過程のび成の促進	病理学・口腔病理学	1後	2			○		1							
		微生物学・免疫学	1後	2			○				1					
		薬理学・歯科薬理学	1後	2			○								兼1	
		小計(3科目)	—	6	0	0	—	—	1	0	0	1	0	兼1		
	防衛に・会関のわ腔仕るの組人健間康と社予	衛生学・公衆衛生学	1前	2			○		1							
		口腔衛生学Ⅰ	1前	1			○		1							
		口腔衛生学Ⅱ	1後	1			○		1							
		保健情報統計学	1後	1			○		1							
		衛生行政・社会福祉	1後	1			○		1							
地域歯科保健活動論		2後	1			○		1								
小計(6科目)		—	7	0	0	—	—	6	0	0	0	0	0			
専門教	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	1前	2			○		1							
		小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0		
	臨床歯科医学	臨床歯科総論	1後	1			○		1							
		歯科放射線学	2前	1			○		1							
		保存修復学・歯内療法学	2前	2			○		1						兼1	
		歯周病学	2前	2			○									
		歯科補綴学	2前	1			○		1							
		口腔外科学	2前	2			○		1							
		歯科矯正学	2前	2			○								兼1	
		小児歯科学	2前	2			○		1							
高齢者・障害者歯科学	2前	2			○		1									
口腔機能リハビリテーション学	2後	1			○								兼1			
小計(10科目)	—	16	0	0	—	—	7	0	0	0	0	0	兼3			

育 科 目	専 門 科 目	歯科予 防 処 置	歯科予防処置論	1前	2			○			1	1		1			オムニバス・ 共同 (一部)		
			歯科予防処置演習	1前	1				○			1	1		1			オムニバス・ 共同	
			歯科予防処置実習 I	1後	2					○		1	1		1			オムニバス・ 共同	
			歯科予防処置実習 II	2前	2					○		1	1		1			オムニバス・ 共同	
			総合歯科予防処置論	3後	1					○		1	1		1			オムニバス・ 共同	
			小計 (5科目)	—	8	0	0			—		5	5	0	5	0	0		
		歯科保 健 指 導 論	歯科保健指導論 I	1前	2				○			1		1	1			オムニバス・ 共同	
			歯科保健指導実習 I	1後	1						○	1		1	1			オムニバス・ 共同	
			歯科保健指導論 II	2前	2				○			1		1	1			オムニバス・ 共同	
			歯科保健指導実習 II	2前	1						○	1		1	1			オムニバス・ 共同	
			総合歯科保健指導論	3後	1					○		1		1	1			オムニバス・ 共同	
			小計 (5科目)	—	7	0	0			—		5	0	5	5	0	0		
		歯科診 療 補 助 論	歯科診療補助論 I	1後	2				○			2			1			オムニバス・ 共同	
			歯科診療補助実習 I	1後	2						○	2			1			オムニバス・ 共同	
			歯科診療補助論 II	2前	2				○			2			1			オムニバス・ 共同 (一部)	
			歯科診療補助実習 II	2前	2						○	2			1			オムニバス・ 共同	
			総合歯科診療補助論	3後	1					○		2			1			オムニバス・ 共同	
			小計 (5科目)	—	9	0	0			—		10	0	0	5	0	兼1		
		臨 地 実 習	臨床・臨地実習 I	2後	9						○	2	1	1	3				
			臨床・臨地実習 II	3前	9						○	2	1	1	3				
臨床・臨地実習 III	3後		2						○	3	1	1	3						
小計 (3科目)	—		20	0	0			—		7	3	3	9	0	0				
専 門 発 展 科 目	医療コミュニケーション学	2前	1				○			1						兼2	オムニバス		
	在宅歯科衛生管理論	3前		1			○			2						兼6	オムニバス		
	医療福祉連携活動論	3後	1				○			1						兼6	オムニバス		
	歯科衛生セミナー	3通	2					○		5									
	小計 (4科目)	—	2	3	0			—		9	0	0	0	0	0	兼8			
合計 (59科目)			—	96	8	0		—		6	1	2	3	0	兼22				
学位又は称号	短期大学士 (歯科衛生学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)											
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
卒業要件：103単位 基礎教育科目：必修10単位 専門教育科目：必修86単位 基礎教育科目と専門教育科目の選択科目から選択必修7単位 その他： ・履修科目の登録上限は半期28単位とする。										1学年の学期区分				2期					
										1学期の授業期間				15週					
										1時限の授業時間				90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(歯科衛生学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	科学的思考の基盤	人間と生物 一般生物学とは違った視点から生命現象をとらえることにより、生物学全般に関する内容の理解を深める。また、生物学の側面から人間社会における問題、例えば、環境問題、健康・福祉に関する問題、経済的な問題など、をとらえ、総合的に学び考えることができる能力を培うことを目標とする。環境・人口・食糧の問題、遺伝子の働き、バイオテクノロジーの基礎と応用、病気とその予防、環境利用などをテーマに、持続可能な社会を学生と共に考える。	
基礎教育科目	科学的思考の基盤	情報演習 社会の様々な場でのICT活用の広がり、その活用形態の急速な変化に対応できる能力の育成をめざす。このために、①各自の学習課題の解決にあたって、必要な情報機器やアプリケーションを選択する力と、ネットワーク上にある様々なリソースを効果的に使うために必要な力、②ネットワークの利便性と危険性を理解することのできる力、③問題解決に必要な情報を検索し収集、さらに、整理分析し発信することのできる力を養う。 授業では、インターネット上に公開されている健康・医療に関する情報を題材として、情報倫理を重視した収集、分析、発信をおこなう。また、学内ネットワークを利用した学習者同士での情報共有や相互評価を導入し、より実践的にネットワークを活用することでその利便性と共に危険性を学ぶ。	
基礎教育科目	科学的思考の基盤	保健体育 健康に関する知識を学びながら、自らの生活習慣や身体組成を具体的に把握することで、健康に対する危機感や重要性を理解することを目指す。同時に、スポーツの実践を通して、生涯にわたる運動習慣への動機づけと健康の保持・増進のための実践能力を身に付けることを目指す。また、運動を行うことによる、心の変化やコミュニケーションの促進を意識しながら、精神のおよび社会的健康を養う。前半の講義では、健康の保持・増進のために必要な生活習慣病などの知識を学び、自らの生活習慣についても具体的に振り返りながら改善点を考える。後半の実習および実技では、様々なトレーニングやスポーツの実践を通して、健康のための実践能力を養うとともに、自らの心身の変化やコミュニケーションに与える効果についても意識しながら実施する。	講義 14時間 実験・実習 16時間
基礎教育科目	人間と生活	ベーシックセミナー 短大生活においては、これからの2年間をどのように過ごすのかを主体的に考え、今までの受け身の授業から能動的に行動する能力が求められる。本科目では、短大での授業を授業する上でうえで必要な基本的スキルを理解し、時間管理や学習習慣などの自己管理能力、情報活用能力、思考方法などを習得することを目的としている。 具体的には以下の3点を目標として授業を行う。 ①入学してすぐの不安を取り除き、目白大学短期大学部生としての誇りを持たせて仲間作りの支援をする。 ②学ぶ目的を理解させ、授業に前向きに取り組ませる。 ③何ごとも自己責任でやらなくてはいけないことを理解させ、卒業後のビジネス社会で活躍するために社会のルールを身につけさせる。	

基礎教育科目	人間と生活	心理学	<p>(概要) 歯科衛生士には他者とコミュニケーションをはかりながら、その方々の健全な発達や健康を支えることが求められる。この授業では、社会生活における人間関係のあり方や仕組み、カウンセリングの方法などを学ぶとともに、子どもから高齢者までの心身の発達を理解する。また、その基礎となる人間の心と行動に関するメカニズムや学習理論などについても把握する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(19 河野理恵/2回) 人間の心と行動との関係を理解するために、心のメカニズムや学習理論など、心理学における基礎的内容について理解する。</p> <p>(29 阿部(市村)美帆/6回) 人間は何をどのように学習し、発達していくのかを理解するとともに、発達過程における各年代ごとの課題や目的について学ぶ。また、実際の社会生活における人間関係の仕組み、問題を抱える人々への対応など、心理学における応用的内容について理解する。</p>	オムニバス方式
基礎教育科目	人間と生活	英語	<p>日常生活のさまざまな状況で使われる英語表現について学習する。</p> <p>自己紹介・家族・趣味・スポーツや映画などの娯楽・食べ物・旅行・健康・将来などについて自分の考えを述べたり、相手に聞いたりするために必要な単語や表現を学んでいく。ナチュラルスピードで話される会話を聞いて、内容を理解したり、モデルダイアログの音読練習を通して英語らしい発話をするための訓練を行う。</p> <p>比較的初歩的な単語を用いながら、短い文を重ねていくことで、自分の伝えたい内容を十分に表現できるようになることを目指す。</p>	
基礎教育科目	人間と生活	歯科英語	<p>社会、文化、経済などあらゆる側面でグローバル化が進む現代において英語は歯科においても必要不可欠な情報手段である。この科目では、歯科医療の現場で求められる実践的コミュニケーション能力を養うことを目指す。すなわち、歯科衛生士として英語を用いて患者と会話、説明、指示、指導する際に必要となる英語のスキルを身につけるとともに、歯科英語のトピックス等を読みとれることを目標とする。そのために歯科診療場面で使用される英単語や表現の正確な理解を図り、ロールプレイングなどを取り入れて英会話の実践力を養う。</p>	
基礎教育科目	人間と生活	生命倫理学	<p>倫理学は「人はどう生きるべきか？」を問う学問である。現代社会においては旧来の価値観が揺らいでおり、特に医療の現場では、医学の日進月歩によって価値観の変遷が激しい。人間の倫理面で注意・用心しなければならない人間の生命にかかわる技術の進展は、これまでわれわれが生きてきた倫理を、出生、死、遺伝子の3つのレベルにおいて超出しており、具体的には体外受精、脳死・臓器移植、遺伝子操作のことで、生命そのものを操作する技術とすることができる。そこで、このような生命科学技術に相応する生命倫理は何を問う学問であるか理解することを目標とし、上記3レベルにおける具体的な技術展開が社会にどのような意味をもたらしているかを明らかにしながら、今日、展開されている生命倫理学を理解し、生命科学技術の倫理性を思考する態度を養うことを最終目標とする。</p>	
基礎教育科目	人間と生活	日本語表現	<p>実践的な学習を通し、「読む・書く」ことができるための基本的表現力を身につけ、社会人として求められる文章力を養うことを目的とする。①文の基本構成を学び、新聞記事や論説をもとに意見文の作成や説明文の作成を行う。②レポートの書き方の基本を学習することで、歯科の研究で必要とされるデータや図表の引用の仕方、文献リストの書き方などを理解し、課題として出されるレポートの質を高める。③口頭発表までのプロセスを学習することで、社会に出て通用する言語運用能力をつける。</p>	

基礎教育科目	人間と生活	ビジネスコミュニケーション	<p>(概要) 医療現場で求められるコミュニケーションに関する学問的な背景を学び、歯科衛生士として通用する対人関係能力を獲得することを目的とする。その目標を達成するために、ビジネスマナーに関する基礎的な知識を学習することを含めた科目内容とする。①コミュニケーションスキルの基礎を習得する。②社会人として基本的なビジネスマナーを習得する。③医療現場で必要な、実務に即した知識や技術を修得する。また、医療マネジメントの基礎、組織行動の基礎、医療組織の経営環境を学び、働く個人が経営マインドを持ち、経営変化に適応し効率的な職務遂行ができる知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑧ 常松玲子／9回) コミュニケーションスキルの基礎を理解し、社会人として基本的な知識・技能を習得する。</p> <p>(⑩ 上岡史郎／6回) 医療マネジメント、組織行動、医療組織の経営環境の基礎を理解し、効率的な職務遂行ができる知識を習得する。</p>	オムニバス方式
基礎教育科目	人間と生活	キャリアデザイン	<p>歯科衛生士のキャリアは今後ますます多様化すると考えられる。将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造について知ることを通して、意欲的な人生設計への実現に向けた実践的な選択行動がとれるようにする。生涯発達としての人生のキャリアの考え方を学び、その判断材料としての事例研究、ロールモデルとしての多様な職域で活躍する先輩歯科衛生士を通じて自らが社会でどのように生きていくか、どのようなキャリアを目指すのかを学び理解する。これまでの経験を活用し、グループワークや発表などを中心とした学びとする。</p>	
専門教育科目	専門基礎科目	解剖学・組織発生学	<p>(概要) 解剖学は医学の基礎を為す学問であり、医療を学ぶためには必須の分野である。肉眼解剖学では人体の構造およびその成り立ちを知ることにより人体の基本構造を理解する。また医療人として必要な基本的な解剖学用語を習得する。人体を構成する構造を理解するために骨・筋・内臓などを系統ごとに学習するのみならず各系統間の関係を知り、人体の多くの構造物が有機的に関連をしていることを理解する。組織学では四大組織の分類とそれらの特徴を理解し、正常なマイクロ構造の形態学的特徴を知ることが目標とする。また、発生学は生命の誕生から発育・成長までの過程を知ることにより、人体各部の発生時における形態的变化について理解する。最終的には人体の構造についての知識をいろいろな場面で応用できる知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(③ 中島功／10回) 肉眼解剖学的構造を理解するために人体の各系統について学習を行い、それらを統合する。</p> <p>(⑫ 三島弘幸／5回) 組織学については、四大組織の構造を学び、それらが体のどの部位にどのように存在するかを知る。発生学については、減数分裂から配偶子の形成、受精から三層性胚盤の形成と各胚葉からどのような器官が形成されるかを知る。</p>	オムニバス方式

専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能	生理学	生理学は正常な生体の機能を探求する学問である。お腹が空いたり、暑いと汗が出たり、運動したり、恐怖に慄くと心臓の拍動や呼吸が激しくなる。近くや遠くを眺めても、焦点のピントが自然と合い、いちいち考えなくても歩いたり、走ったりすることがバランス良く行われる。生体で営まれる生命現象には、感覚系機能（特殊感覚、体性感覚および内臓感覚）、動物系機能（随意運動および反射運動）および植物系（自律神経系および内分泌系）の3つ系統で成り立っており、これら各系統のシステムおよび関連性を十分理解させることを目標とし、さらに、生命活動の機能面を追求し、病的状態の異常を理解させる。このような生体の機能面を追求し、病的状態の異常を理解することは医療を志すものにとって是非必要な知識であり、疾病の予防や治療にあたって遭遇する生体の現象を、自らの工夫で解決するために、きわめて基礎となる知識を学習する。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能	生化学・栄養学	生化学の基本は、生命の営みを理解することである。食事から摂取した栄養素が、体内でどのように利用されているか、エネルギー代謝やホルモンによる調節の機序を学ぶ。栄養とは、外界から必要な物質を取り入れ、それをエネルギー源にしたり、身体構成成分を合成したりする生命の営みをいう。栄養学では栄養の基本概念と意義、各栄養素の機能、消化吸収、水分代謝について習得し、健康の維持・増進、疾病の予防と栄養の関わりについて学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	専門的知識に裏付けられた歯科衛生士として歯科衛生士業務を的確に行うため、人体の構造、とくに歯の形態および口腔周囲の構造と機能を理解することは大切である。歯は咀嚼・咬合に大きく関与するため各歯種の形態と機能および歯により構成される歯列を正確に把握することが歯科臨床において重要である。さらに頭頸部を構成する骨、骨に付着する筋、神経・脈管の走行などを理解することが適切な臨床処置を行ううえで大切となる。そこで、口腔解剖学では講義のみに限らず、頭蓋骨を使用した実習形式の授業や歯の形態を理解するための歯型彫刻実習を併せて行い学生の理解を深める。	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の構造と機能	口腔生理学	食べること（咬むこと、咀嚼すること）、しゃべること、味わうこと、顔貌を形成すること、表情をつくることなど、他の動物には比類のない機能を口腔が担う。そして高齢者・要介護者が抱える諸問題の中でも、とくに咀嚼・嚥下・発声の障害は将来増加することが予測される。口腔疾患を予防あるいは治療してその正常な機能を回復し、口腔疾患に基因する全身や口腔の機能異常を正常にすることを目的とし、咬合、咀嚼、嚥下、発声の各メカニズムについて学習し理解する。	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の構造と機能	口腔生化学	口腔生化学では、生体の構成要素とその化学成分や生命現象を支えるエネルギー代謝を学び、歯科衛生士に必要な生化学的・分子生物学的基礎知識を身につけることを目的とする。すなわち、生体の代謝を学び、いかに生体恒常性が維持されているか、また代謝の破たんが病気を引き起こすことや異常代謝を人為的に調節することが疾病対応の基本であることを平易に解説する。本科目では、硬組織の起源とその進化、結合組織の生化学、石灰化の機構、唾液の生化学、炎症と免疫、歯周組織と歯周疾患の成り立ちなどについて理解を図る。	

専門教育科目	専門基礎科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学・口腔病理学	<p>一般病理学においては、解剖学・生理学・微生物学・生化学など生体の正常の形態と機能を理解した上で、これを基礎として、様々な全身疾患について、その発症の原因と、生体のマクロ・ミクロレベルでの反応、及び、その防御反応と治癒過程を含めて学び理解する。</p> <p>口腔病理学においては、口腔解剖学・口腔生化学・口腔微生物学・口腔生化学などを基礎として、特に、口腔の二大疾患であるう蝕の成因とその進行、う蝕に伴う歯髄疾患の成因と反応と治癒過程、辺縁性歯周炎の発症の原因と病態とその治癒過程について理解する。また、う蝕や歯周病以外の様々な口腔病変を総合的にケアできる歯科衛生士として必要な、口腔顎顔面領域に発症する、先天異常・炎症・アレルギー・外傷・神経疾患・唾液腺疾患・嚢胞・腫瘍性疾患等について学ぶ。</p>	
専門教育科目	専門基礎科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	微生物学・免疫学	<p>歯科医療の現場で、根拠に基づく滅菌・消毒、患者の感染ケアができる歯科衛生士となるために、感染症を起こす微生物の特徴を理解し、清潔・不潔の概念、感染症の原因・経路・経過・防御機構及び治療法について学習し理解する。</p> <p>さらに、免疫学では生体の特異的防御機能である免疫反応と、過剰な生体防御反応であるアレルギーの概念と対処法について理解する。</p> <p>特に、歯科衛生士として最も必要とされる、口腔領域の二大疾患の原因となる、う蝕原因菌・歯周病原菌を含む口腔微生物の種類と特性、口腔の防御機構および口腔感染症の概念と治療・予防法を理解する。</p>	
専門教育科目	専門基礎科目	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	薬理学・歯科薬理学	<p>歯科衛生士は、歯科医師の行う薬物療法に対して適切に対応し、患者に対する薬物処置の説明や薬物の管理を適正に行い、自らの使命である予防処置に必要な薬物に対して正しい知識をもって対処できることが求められる。また、歯科で扱う患者は、小児から高齢者まで年齢の幅が広いことから、小児および高齢者の薬物代謝の特徴、壮年期の患者の薬物代謝との違いについて周知し、内科疾患を併発した患者に対する薬物の使用について歯科医師と連携が取れることも必要である。このような観点から、薬理学の総論では生体と薬物の関係、薬物の性質と取扱いについて学習し、各論では歯科で用いる薬物だけでなく、他科領域の疾患を持った患者にも適切に対応するために、薬物の基本的な知識を習得する。</p>	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	<p>衛生学・公衆衛生学は、環境における諸因子の健康への影響と、人間側からの環境と社会への働きかけとの相互関係を研究することを専門領域としている。また、常に社会のなかにある人間を対象としていることから、医学領域の倫理及び哲学とも考えられている。このように衛生学・公衆衛生学は保健医療従事者として社会で活動していくための基本的な活動分野であって、まことに広い領域を対象としている。この講義では、人間の健康の科学である衛生学・公衆衛生学の各分野について基礎的な知識を身につけ、地域活動のなかで絶えず思考し、広い視野と社会的洞察力で展開できる能力を習得する。</p>	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学 I	<p>口腔衛生学は、衛生学・公衆衛生学のなかにあつて、歯や口腔という特異な性格を有する生体機能を対象として取り扱う学問である。幅広く自然科学や社会科学および人文科学を応用し、歯や口腔の健康の保持・増進に対応するための理論および手段・方法を研究し、併せて歯や口腔が人体の健康にうまく関わっていくような原理と方法を究めるための科学である。この講義では、口腔衛生学総論として、口腔保健の現状と対策、口腔の発育・発達と機能、遺伝、栄養、全身との関係などについて学ぶとともに、歯や口腔の疾病予防に関する全般的な事項の知識と技術について理解する。</p>	

専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学Ⅱ	口腔衛生学Ⅱは、口腔衛生学Ⅰで学んだ内容を基礎として、齲蝕や歯周病などの歯科疾患および異常の成因あるいは発生機序について学び、予防と歯科保健の概念に基づいた予防処置の実施方法および歯科保健指導の指針を習得する。すなわち、個人における口腔の健康と機能の維持・増進のための歯科疾患の局所的要因、全身的要因、社会的要因および環境要因について学び、個人の歯科疾患のリスク評価についての方法に関する理解を深める。さらに、リスク評価に基づいたライフステージにおける保健指導の知識と方法および予防処置の種類と実施方法を学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	保健情報統計学	歯科衛生活動に必要な保健医療情報の収集と取捨選択から、収集したデータの処理と解析まで、目的に応じたステップを踏んだ科学的なアプローチの習得を目標とする。科学的な根拠に基づいた保健医療が求められている現在、歯科衛生活動を展開するためには必須のアイテムとなるものと考え。具体的には、基本統計学を用いた保健・医療・福祉分野における情報の性質や情報収集の考え方を理解する。歯科衛生教育ならびに歯科保健指導のための衛生統計の基礎知識および統計資料の活用法を習得する。また、歯科で用いられる指数を理解し、応用することができるようにする。さらに、歯科疾患実態調査に代表される歯科に関連する統計調査について説明できる能力を養う。	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生行政・社会福祉	国民の健康保持に関するサービスを円滑に提供していく上では、サービスの受け手である人々と医療関係者との信頼関係が不可欠であり、通常の業務を行う上で社会との関わりや社会的なシステムについてよく理解することが必要となる。そのためには医療関係職種や医療提供施設などの関連業務について法律や制度を理解しておくことが必要となる。この講義では、社会の仕組みの根幹をなす法律とそれを動かしている行政について理解し、さらに歯科衛生行政ならびに歯科衛生士に関する法律や制度の本質を学習し、歯科衛生士の業務が保健・医療・福祉制度のもとで国民の健康生活と深く関わることを認識させて、歯科保健医療の専門的担当者としての歯科衛生士の資質を培うことを狙いとしている。	
専門教育科目	専門基礎科目	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	地域歯科保健活動論	口腔衛生学Ⅰならびに口腔衛生学Ⅱにおいて学んだことを基礎として、保健医療の分野における地域歯科保健活動の重要性を理解し、各ライフステージにおける地域歯科保健活動の知識を身につけ、疫学的アプローチに基づいた臨床および歯科衛生士として、広い視野と社会的洞察力を有し、地域における活動を展開できる能力の習得を図る。すなわち地域保健活動における計画・立案に参画でき、他の保健・医療・福祉職、行政担当者、住民組織などと協働し、地域における組織活動に携わることができる能力を養う。	
専門教育科目	専門科目	歯科衛生士概論	歯科衛生学総論	歯科衛生士が歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援するために、その基本となる歯科衛生学について理解する。歯科衛生と健康のかかわり、歯科衛生の歴史、科学的な根拠をもって歯科衛生を実践するためのツールである歯科衛生過程、歯科衛生業務の法的な位置づけ、医療倫理、歯科衛生士の活動の場について学び、歯科衛生士の社会的役割を理解する。また、医療および地域における連携の必要性を理解し、多職種との連携に必要な知識を習得する。	

専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	臨床歯科総論	臨床歯科医学の基礎となる知識の習得をはかる。すなわち、歯科医療の現況や歯科医療の内容と特徴、医療従事者に求められる倫理・医療安全などを学び、臨床現場で歯科衛生士の担う役割について理解する。主な学習項目として、1. 歯科医療の現況と特徴 2. 医の原則とリスク管理 3. 歯科診療業務の流れと歯科衛生士の役割 4. 主な歯科疾患と治療内容の流れ 5. 歯科専門各科と診療内容の概要 6. 小児患者・高齢患者・全身疾患・障害のある患者への理解と対応	
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	歯科放射線学	歯科領域の疾患は歯及び顎骨などの硬組織に囲まれ、う蝕や歯周病などの診断に際して、エックス線による検査が不可欠であることから、放射線発生原理、放射線障害とその問題点、被曝を減らすための防護方法について学ぶ。 特に、歯科診療の際に汎用される、デンタル撮影法・パノラマ撮影法・セファロ撮影法などの各種エックス線撮影の方法を理解する。次に、適切な患者誘導のための準備と的確な位置決め、デジタルエックス線を含むエックス線フィルムやデータの現像・読み込み・整理・保管管理法などを理解する。 また、口腔癌などの際に行われる放射線治療患者の治療時の病態の理解と、治療の介助、周術期口腔機能管理を含む口腔管理の方法を学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	保存修復学・歯内療法学	歯の硬組織疾患に対する歯の保存療法概念と意義を踏まえたうえで、歯科衛生士として習得すべき保存修復法および歯内療法の基本知識を学ぶ。主な学習項目として【保存修復学】1. 各種口腔検査の方法 2. 歯の硬組織疾患の病態と歯冠修復の概要と手順 3. 直接および間接修復法の概要と修復材料の特徴 4. 診療補助時の前準備および必要器材 5. 変色歯のホワイトニングの概要【歯内療法学】1. 歯髄疾患および根尖歯周組織疾患の臨床的分類と病態・処置方針の概要 2. 歯髄の保存・除去療法および根管治療法の検査、治療手順 3. 外科的歯内療法および外傷歯への処置の概要 4. 診療補助時の前準備および必要器材・使用薬剤	
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	歯周病学	正常な歯周組織の構造や機能などの基礎知識を踏まえ、歯周疾患の病因や分類、全身疾患との関連性について学び、歯周治療とその評価に必要な診査・診断・治療の流れについて知る教授するとともに歯科衛生士が担う役割について理解する。主たる学習項目として、1. 歯周組織の構造と機能 2. 歯周疾患の分類と病因および全身疾患との関連 3. 歯周治療の流れの概要と歯周病の診断に必要な検査 4. 歯周基本治療と歯周外科治療の目的と効果 5. 歯周治療における口腔機能回復治療の方法 6. 歯周治療における歯科衛生士の役割と担う業務の実際	
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	歯科補綴学	う蝕や歯周病をはじめ、種々の疾患に伴って起こる歯の欠損により、喪失した咬合・咀嚼・構音などの機能と審美性を、冠架橋義歯（クラウンやブリッジ）、義歯などの装置を用いて回復させ、維持していく方法について学ぶ。 特に、歯科医師・歯科技工士それぞれの役割を理解し、チーム歯科医療の中で、様々な補綴装置の種類を理解し、その製造過程や、修理、メンテナンスの方法について学び、患者に適切な指導ができる能力を養う。 また、外傷や口腔癌などの術後の変形・欠損に対する補綴治療や、高齢者の摂食嚥下を補助する特殊な補綴装置装置についても学ぶ。	

専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	口腔外科学	<p>口腔顎顔面領域の発症する疾患には、二大疾患であるう蝕と辺縁性歯周炎ばかりでなく、先天異常・炎症・アレルギー・外傷・神経疾患・唾液腺疾患・嚢胞・腫瘍性疾患等のさまざまな疾患がある。</p> <p>それぞれの原因・症状・病態と、臨床検査方法・治療法について理解し、歯科衛生士として適切な補助や、術後の患者指導を行えるようにする。</p> <p>また、口腔に原発する疾患、口腔から全身に影響を与える疾患、全身疾患の部分症として現れる疾患については、その関連性を理解する。</p> <p>診療に不可欠である麻酔・精神鎮静法などの原理とその方法と注意事項、診療の際に起こりうる気分不快症状とその対応、AEDなどを含む心肺蘇生法についても理解する。</p>
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	歯科矯正学	<p>歯科矯正学は顎顔面の成長・発育を基盤に、咬合の改善と審美性を追求する学問である。治療は青少年にとどまらず、40～50歳代を含む幅広い世代に、そして口蓋裂をはじめとする顎顔面形成異常を有する方々や歯周病や欠損補綴における咬合の再構築も対象に行われることから補助および介補業務や患者指導に歯科衛生士として活躍する場の多い分野である。歯科矯正学の概要、特に治療目的をよく理解し、矯正診断から治療、保定までの円滑な治療の補助ならびに介補に必要な知識と技術、態度を学ぶとともに矯正治療における口腔衛生の重要性と特殊性を理解し指導ができることを目標とする。</p>
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	小児歯科学	<p>小児の身体的、心理的発育の基礎知識を学び、現代の小児や養育者を取り巻く環境を理解した上で、歯科衛生士として必要な小児患者の対応についての技術・態度を習得する。また、発育期特有の口腔疾患の概要や乳歯・幼若永久歯の特徴および歯列の成長変化に応じた治療法、予防処置、保健指導の基本知識について学ぶ。主たる学習内容は総論として1.心身の発育と小児の生理的特徴 2.歯・歯列咬合・顎顔面の成長発育と異常、3.小児の歯科疾患 各論として1.小児歯科診療体系と診療補助における原則 2.各種歯科治療・検査の概要と準備器具類 3.診療時の小児患者の対応法と留意点 4.年齢に応じた予防法・口腔保健管理</p>
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	高齢者・障害者歯科学	<p>高齢者および障害者を取り巻く社会や環境に関する理解を深めた上で、加齢に伴う心身および口腔の形態・機能的変化や各種障害の特徴を知り、歯科衛生士として必要な口腔機能の維持・向上のためのケアや支援方法の基本的知識、診療時の対応や必要な行動調整法について学ぶ。主な講義内容【高齢者歯科学】1.高齢者の現状と環境 2.加齢に伴う心身の変化と疾患 3.高齢者の状態把握と評価 4.高齢者の状態に応じた口腔のケアと留意点 5.高齢者における口腔機能のリハビリテーションの概要と多職種間の連携 【障害者歯科】1.障害の概念と障がい者への理解と支援 2.主な心身の障害の特徴と留意点 3.障がい者の歯科診療時の行動調整と安全管理 4.障がい者への口腔ケアと留意点 5.地域連携と歯科衛生士の役割</p>
専門教育科目	専門科目	臨床歯科医学	口腔機能 リハビリテーション学	<p>専門知識に裏付けされた歯科衛生士として口腔の健康を総合的に捉え、口腔領域から健康を推進するスペシャリストを目指すための一環として、摂食・嚥下の解剖・生理、機能発達・減退、栄養ならびにリハビリテーションの実際を理解することを目的とする。本科目を通じて、現代社会においてこの領域がいかに医療・福祉の枠を超えて高いニーズがあり、その担い手が求められているかを理解する。卒後の臨床場面で、摂食・嚥下リハビリテーションを理解し、他職種と協調しながら歯科衛生士としての専門性を十分に発揮できる知識・技能・態度を習得する。</p>

<p>専門教育科目</p>	<p>専門科目</p>	<p>歯科予防処置論</p>	<p>歯科予防処置論</p> <p>(概要) 歯科予防処置についての専門的知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要について学ぶ。人々が正常な歯、歯周組織と口腔の機能を維持できるようサポートすることは、歯科衛生士の重要な役割の一つである。歯・口腔の疾患を予防する方法の齶蝕予防処置法と歯周病予防処置法の概要について理解する。また、対象者の全身状態や歯・口腔の情報を収集することの必要性と、その具体的な方法について習得する。収集した情報をもとに歯科衛生士が予防処置として行うスケーリングや歯面研磨などについても概要を理解する。歯科予防処置時に起こりうる不快事項とその予防方法、適切な対処方法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 田口ななこ・1 高久悟/2回) (共同) 歯科予防処置についての専門的知識と技術および態度を習得する目的と意義を理解する。</p> <p>(6 田口ななこ/2回) 歯周病予防処置と齶蝕予防処置の概要について理解する。</p> <p>(6 田口ななこ・10 磯貝友希/6回) (共同) 歯周組織診査、スケーリング、歯面研磨それぞれの目的と使用器具、基本的な動作や操作を習得する。</p> <p>(10 磯貝友希・6 田口ななこ/5回) (共同) 歯科予防処置に必要な情報の収集、記録、分析のためのデータについて理解する。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p>
<p>専門教育科目</p>	<p>専門科目</p>	<p>歯科予防処置演習</p>	<p>歯科予防処置演習</p> <p>(概要) 齶蝕と歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的知識、技術および態度を習得する。齶蝕、歯周病と生活習慣・全身疾患との関連について理解を深める。歯・口腔の情報収集のための具体的な方法について演習を行い理解を深める。収集した情報をもとに行う施術のうち、スケーリング、歯面研磨、歯面清掃などについて、マネキンと顎模型を用いて基本的な動作や操作を習得する。予防処置施術中の偶発事故予防のために危険予知トレーニングの技法を用いて理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 田口ななこ・1 高久悟・/3回) (共同) 歯・口腔の基礎知識として歯式、正常な口腔歯周組織について習得する。齶蝕・歯周病と生活習慣・全身疾患との関連について理解を深める。</p> <p>(6 田口ななこ・1 高久悟・10 磯貝友希/12回) (共同) 歯・口腔の情報収集のための専門的知識と具体的な方法について習得する。マネキンの使用目的と使用方法を理解し、スケーリング、歯面研磨、歯面清掃などについて、それぞれの基本操作を習得する。予防処置施術中の偶発事故予防のために危険予知トレーニングの技法を用いて理解する。</p>	<p>オムニバス方式・共同</p>

専門教育科目	専門科目	歯科予防処置論	<p>歯科予防処置実習Ⅰ</p> <p>(概要) 齲蝕と歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的知識、技術および態度を習得する。齲蝕予防処置では、その臨床的効果、作用機序、安全性、便宜性を理解し、齲蝕予防処置法の選択方法を習得する。歯周病予防処置を実践するために必要な専門的知識と技術、具体的には歯周組織の検査、スケーリング、シャープニング、歯面清掃、歯面研磨などの操作方法をマネキンで習得する。学生相互による実習によって、歯面清掃、歯面研磨およびプロービングを安全に実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 田口ななこ・10 磯貝友希／11回) (共同) 齲蝕予防処置法について理解し、選択方法を習得する。歯周組織の検査、スケーリング、シャープニングなどの操作方法をマネキンで習得する。</p> <p>(1 高久悟・6 田口ななこ・10 磯貝友希／4回) (共同) 学生相互による実習によって、歯周病予防処置を実践するために必要な歯面清掃、歯面研磨およびプロービングを安全に実施する。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	歯科予防処置論	<p>歯科予防処置実習Ⅱ</p> <p>(概要) 齲蝕と歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的知識、技術および態度を習得する。歯科予防処置実習Ⅰで習得したマネキンにおけるインストルメントの基本操作と機械スケーラーの基本操作を、学生相互実習で実践する。予防システム構築につながる継続管理の視点を養うため、歯科衛生過程による科学的思考に基づいた分析を行い、歯科衛生士としての専門的知識を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 田口ななこ・10 磯貝友希／8回) (共同) 歯科予防処置実習Ⅰで習得したマネキンにおけるインストルメントの基本操作と機械スケーラーの基本操作を、学生相互実習で実践する。</p> <p>(1 高久悟・6 田口ななこ・10 磯貝友希／7回) (共同) 予防システム構築につながる継続管理の視点を養うため、歯科衛生過程による科学的思考に基づいた分析を行い、学生相互実習を実施する。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	歯科予防処置論	<p>総合歯科予防処置論</p> <p>(概要) 臨床・臨地実習での体験によって深めた知識や技術を含め、これまでに学習した歯科予防処置の専門的知識や技術および態度について個人やグループで振り返りを行い、個々の定着状況を確認する。歯科予防処置に関する項目を総合的に復習することで、知識、技術および専門職としての態度を確実なものとする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 田口ななこ・1 高久悟／2回) (共同) 歯科予防処置に関する知識の定着状況を確認するとともに、歯科予防処置に関する知識、技術および態度について総合的に振り返り、それぞれの現存する課題を明確にする。</p> <p>(6 田口ななこ・10 磯貝友希／13回) (共同) 齲蝕予防処置と歯周病予防処置に関する知識の定着状況を確認するとともに、それらに関する知識、技術および態度について個人やグループで総合的に振り返り、それぞれの現存する課題を明確にする。総合的に復習することで、知識、技術および専門職としての態度を確実なものとする。</p>	オムニバス方式・共同

専門教育科目	専門科目	歯科保健指導論	<p>歯科保健指導論Ⅰ</p> <p>(概要) 歯科保健指導についての基礎知識、技術および態度を習得する。歯科保健指導の法的な位置づけと概要、健康の概念、予防の概念を学ぶとともに、人々の健康にかかわる口腔の健康の保持増進のため、ライフステージ毎の一般的特徴・口腔の特徴をふまえた上で、プロフェッショナルケア、セルフケアの目標を考える。対象者の生活行動を好ましい歯科保健行動に導き、適切な栄養、食生活指導につなげられるよう歯科保健指導実施のための基礎知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 小竹瑞穂・11 杉原(小柳)佳奈／12回) (共同) 歯科保健指導についての基礎知識、技術及び態度を習得する。ライフステージ毎の歯科衛生介入に関する知識を習得する。</p> <p>(7 小竹瑞穂・3 佐藤昌史・11 杉原(小柳)佳奈／3回) (共同) ライフステージ毎の歯科衛生介入(新生児期・乳児期・幼児期・学童期)に関する知識を習得する。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	歯科保健指導論	<p>歯科保健指導実習Ⅰ</p> <p>(概要) 歯科保健指導の対象者に応じた口腔清掃指導を行うために、必要な知識、技術および態度を習得する。基本的な口腔清掃方法と、口腔清掃に使う器具の特徴・操作方法について学び、さらに機械的プラークコントロール(ブラッシング、フロッシングなど)と化学的プラークコントロール(歯磨剤、洗口剤など)の実際的な方法について理解を深める。歯面に付着・沈着するプラーク・歯石について学び、口腔内の汚れの状態を評価し、状況に応じた口腔清掃器具を選択できるようにする。また、歯科保健指導を実施するうえで、一人ひとりの対象者が抱えている問題を明確にし、解決に導くための一連の行動とプロセスを習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 小竹瑞穂・11 杉原(小柳)佳奈／13回) (共同) 歯科保健指導の対象者に応じた口腔清掃指導を行うために、必要な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>(7 小竹瑞穂・3 佐藤昌史・11 杉原(小柳)佳奈／2回) (共同) 歯科保健指導を進めるうえで歯科衛生過程についての知識・態度を習得する。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	歯科保健指導論	<p>歯科保健指導論Ⅱ</p> <p>(概要) 歯科保健指導を行うために、対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程の知識、技術および態度を習得する。歯科衛生過程の6つの構成要素に基づき、情報収集を行い(歯科衛生アセスメント)対象者の抱える問題を明確にし(歯科衛生診断)、解決方法を計画(歯科衛生計画立案)、計画を実施し(歯科衛生介入)、プロセスと結果の評価(歯科衛生評価)までの思考と行動のプロセスを学ぶ。歯科衛生士として口腔機能管理を行うため、口腔機能を評価し機能の維持・管理方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 小竹瑞穂・11 杉原(小柳)佳奈／11回) (共同) 歯科保健指導を行うために、対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程の知識・態度を習得する。</p> <p>(7 小竹瑞穂・3 佐藤昌史・11 杉原(小柳)佳奈／4回) (共同) 口腔機能管理を行うにあたり、口腔機能を評価し機能の維持・管理方法を習得する。</p>	オムニバス方式・共同

専門教育科目	専門科目	歯科保健指導論	<p>歯科保健指導実習Ⅱ</p> <p>歯科保健指導の集団に対する健康教育において、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを理解し、ライフステージを踏まえた地域歯科保健活動の知識、技術および態度を習得する。集団を対象とした健康教育に効果的な方策を選択し、指導案を考え教育媒体を作成する。</p> <p>臨地・臨床実習に向けた知識と技術のまとめと確認を行う。歯科保健指導の対象者の全身状態の把握、歯・口腔状態の把握、医療面接の技術・態度を確認し、臨床における歯科衛生活動と歯科衛生過程について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 小竹瑞穂・11 杉原(小柳)佳奈／13回) (共同) 歯科保健指導の集団を対象とした健康教育について必要な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>(7 小竹瑞穂・3 佐藤昌史・11 杉原(小柳)佳奈／2回) (共同) 臨床における歯科衛生活動と歯科衛生過程について理解を深める。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	総合歯科保健指導論	<p>(概要) 歯科保健指導論Ⅰ・Ⅱ、歯科保健指導実習Ⅰ・Ⅱで学習した歯科保健指導の知識・技術と、臨床・臨地実習で実践したことを振り返る。指導の対象となる個人や集団の特徴を復習し、日常生活に取り入れられる歯科保健行動の提供を目指す。歯科保健指導について、さらに理解を深めるとともに、習得した専門的知識の定着状況を確認する。歯科衛生士として必要な歯科保健指導の知識・技術および専門職としての態度をより確かなものとする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7 小竹瑞穂・11 杉原(小柳)佳奈／12回) (共同) 歯科保健指導に関する知識の定着状況を確認するとともに、歯科保健指導に関する知識、技術および態度について総合的に振り返り、個々に習得できていない課題を明確にする。歯科保健指導に関する項目を総合的に復習することで、知識、技術および専門職としての態度を確かなものとする。</p> <p>(7 小竹瑞穂・3 佐藤昌史・11 杉原(小柳)佳奈／3回) (共同) ライフステージ毎に必要な歯科保健指導と口腔機能管理に関する知識の定着状況を確認する。歯科保健指導に関する知識、技術および態度について総合的に振り返り、個々に習得できていない課題を明確にし復習する。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	歯科診療補助論Ⅰ	<p>(概要) 歯科診療補助のために必要な基礎知識および基本的態度を習得する。歯科器械、器材、材料の特徴と取り扱い方法を理解する。歯科診療環境の整備、感染予防を含む医療安全管理、共同動作に必要な知識を習得する。バイタルサイン測定を含む歯科領域に必要な臨床検査の目的、補助の方法を理解する。また、患者の視点からみた歯科診療補助を考えるとともに、さまざまな疾患や障害のある患者を理解し、歯科受療を支援することができる態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 中野恵美子・12 天羽崇／13回) (共同) 歯科診療補助のために必要な基礎知識および基本的態度を習得する。</p> <p>(5 中野恵美子・4 山田隆文・12 天羽崇／2回) (共同) バイタルサイン測定を含む歯科領域に必要な臨床検査の目的、補助の方法を理解する。</p>	オムニバス方式・共同

専門教育科目	専門科目	歯科診療補助論	<p>歯科診療補助実習Ⅰ</p> <p>(概要) 歯科診療補助のために必要な基礎的技術および基本的態度を習得する。歯科診療補助論Ⅰで学ぶ知識をもとに、歯科器械、器材、材料の取り扱い方法、歯科診療環境の整備、感染予防を含む医療安全管理、共同動作の技術を習得する。バイタルサイン測定を含む歯科領域に必要な臨床検査の補助の技術を習得する。歯科補綴治療時の診療補助のために必要な印象用材料、模型用材料、合着・接着・仮着用材料を準備し、補助を行う技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 中野恵美子・12 天羽崇／13回) (共同) 歯科診療補助のために必要な基礎的技術および基本的態度を習得する。</p> <p>(5 中野恵美子・4 山田隆文・12 天羽崇／2回) (共同) バイタルサイン測定を含む歯科領域に必要な臨床検査の補助の技術を習得する。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	歯科診療補助論	<p>歯科診療補助論Ⅱ</p> <p>(概要) 歯科診療補助論Ⅰ、歯科診療補助実習Ⅰで習得した知識と技術をもとに、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する知識および態度を習得する。救命救急処置および急性期医療について理解し、緊急時の対応や急性期患者への配慮を行うことができる。保存治療時、補綴治療時、口腔外科治療時、矯正歯科治療時、高齢者・障害児者治療時の診療補助を理解し、必要な器材・薬剤の準備と取扱いを習得する。エックス線写真撮影時の診療補助のために必要な撮影装置の準備、器材の使用法、画像管理を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑤ 中野恵美子・⑥ 天羽崇／12回) (共同) 歯科診療補助論Ⅰ、歯科診療補助実習Ⅰで習得した知識と技術をもとに、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、急性期患者への対応も含め専門的な歯科診療の補助に関する知識および態度を習得する。</p> <p>(⑤ 中野恵美子・④ 山田隆文・⑥ 天羽崇／2回) (共同) 口腔外科治療時の診療補助を理解し、必要な器材・薬剤の準備と取扱いを習得する。エックス線写真撮影時の診療補助のために必要な撮影装置の準備、器材の使用法、画像管理を習得する。</p> <p>(⑨ 高橋幸子／1回) 救急医療における医療・看護の実際と、患者・家族へのかかわり方に関する知識および態度を習得する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	歯科診療補助論	<p>歯科診療補助実習Ⅱ</p> <p>(概要) 歯科診療補助論Ⅰ、歯科診療補助実習Ⅰで習得した知識と技術、歯科診療補助論Ⅱで学ぶ知識をもとに、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する知識、技術および態度を習得する。救命救急処置について理解し、偶発事故や緊急時の対応を実施することができる。保存治療時、補綴治療時、口腔外科治療時、矯正歯科治療時、高齢者・障害児者治療時の診療補助を理解し、必要な器材・薬剤の準備と取扱いを行うことができる。エックス線写真撮影時の診療補助のために必要な撮影装置の準備、撮影の補助、画像管理を行うことができる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 中野恵美子・12 天羽崇／13回) (共同) 歯科診療補助論Ⅰ、歯科診療補助実習Ⅰで習得した知識と技術、歯科診療補助論Ⅱで学ぶ知識をもとに、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する知識、技術および態度を習得する。</p> <p>(5 中野恵美子・4 山田隆文・12 天羽崇／2回) (共同) エックス線写真撮影時の診療補助のために必要な撮影装置の準備、撮影の補助、画像管理を行うことができる。</p>	オムニバス方式・共同

専門教育科目	専門科目	歯科診療補助論	<p>総合歯科診療補助論</p> <p>(概要) これまでに学習した歯科診療補助に関する知識の定着状況を確認するとともに、歯科診療補助に関する知識、技術および態度について個人やグループで総合的に振り返り、それぞれの現存する課題を明確にする。また、臨床・臨地実習での体験をもとに、患者にとっての最適な歯科診療補助とは何かを再考し、明確にした課題を踏まえて歯科診療補助に関する項目を総合的に復習することで、知識、技術および専門職としての態度を確実なものとする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 中野恵美子・12 天羽崇/12回) (共同) 歯科診療補助に関する知識の定着状況を確認するとともに、歯科診療補助に関する知識、技術および態度について個人やグループで総合的に振り返り、それぞれの現存する課題を明確にする。歯科診療補助に関する項目を総合的に復習することで、知識、技術および専門職としての態度を確実なものとする。</p> <p>(5 中野恵美子・4 山田隆文・12 天羽崇/3回) (共同) 補綴治療時、口腔外科治療時、エックス線写真撮影時の診療補助に関する知識の定着状況を確認するとともに、歯科診療補助に関する知識、技術および態度について個人やグループで総合的に振り返り、それぞれの現存する課題を明確にする。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	臨地実習	<p>臨床・臨地実習Ⅰ</p> <p>既習の基本的な知識と技術を実践と結びつけながら、歯科衛生業務の理解を深め、歯科診療の場における実践能力を養う。歯科診療所において、Ⅰ期前半の実習ではチーム医療における基本的なルールを学び、医療安全管理に配慮した行動様式を身につける。主に歯科診療補助業務を実習するとともに、歯科衛生士が行う歯科予防処置および歯科保健指導の実際を学ぶ。Ⅰ期後半の実習では、歯科診療補助業務の知識と技術をより確実なものとするとともに、歯科予防処置および歯科保健指導の実践に必要な知識と技能を習得する。</p>	
専門教育科目	専門科目	臨地実習	<p>臨床・臨地実習Ⅱ</p> <p>歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。病院においては、歯科診療における歯科衛生士の基本的な業務を学ぶとともに、歯科診療所との病診連携を実習を通して理解する。</p> <p>歯科診療所においては、「臨床・臨地実習Ⅰ」で習得した知識と技能を活用し、より専門的な歯科診療における歯科診療補助を実践する。また、指導教員の指導の下、歯科予防処置および歯科保健指導を実践する。</p>	
専門教育科目	専門科目	臨地実習	<p>臨床・臨地実習Ⅲ</p> <p>ライフステージ別の歯科保健活動などの場や障害者への支援の場を通して、歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。</p> <p>高齢者福祉施設においては、老年期の一般的特徴、口腔の特徴、食生活の特徴を理解し、対象者の状況を考慮して歯科保健教育および口腔の健康管理の支援を実践する。歯科診療所においては、歯科受療が困難な人びとに対する歯科受療支援および健康支援における歯科衛生士の役割を理解する。保健センターにおいては、地域歯科保健活動における歯科衛生士の役割を理解する。また、小学校、中学校、高等学校において生徒への歯科保健指導・健康教育を実施し、学齢期および青年期の集団指導における歯科衛生士の役割を理解する。医療型障がい児入所施設においては、障がい児とのコミュニケーション、日常生活の支援方法について学ぶとともに、障がい児の口腔の健康管理の重要性および歯科衛生士の役割を理解する。</p>	

<p>専門教育科目</p> <p>専門 発展 科目</p>	<p>医療コミュニケーション学</p>	<p>(概要) 医療の現場で良好な医療従事者－患者間の信頼関係を構築するため、医療人として必要な知識や倫理観を理解した上で、医療面接技法を習得する。適切な診療が行え、患者が満足感を得るために、患者の言葉を傾聴し、患者の気持ちに共感してスムーズなコミュニケーションを構築する能力や患者のニーズを理解する能力を養う。また、高齢者の歯科治療や周術期口腔機能管理の現場においては、医療福祉職との多職種連携の中で協働する必要がある、チーム医療を行う上で、他者を理解し自らの専門性を生かした提案のできる協調性のあるコミュニケーションの能力も習得する。さらに、歯科衛生過程で重要な、患者の行動変容を促すために、アサーティブな側面から、コーチングなども含めて、医療現場における患者や医療従事者の行動科学について学び、患者との関係性について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(④ 山田隆文／6回) 基本的なコミュニケーションの手法である歯科医療面接技法の傾聴テクニック、共感テクニックなどを習得する。また、歯科衛生過程で重要なコーチングや行動変容のための基礎を理解し、患者とのコミュニケーションのあり方について解説する。</p> <p>(⑦ 立石雅子／1回) 他職種との協働において必要となるコミュニケーションについて解説する。</p> <p>(⑨ 高橋幸子／1回) 急性期医療におけるコミュニケーションについて解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門教育科目</p> <p>専門 発展 科目</p>	<p>在宅歯科衛生管理論</p>	<p>(概要) 超高齢社会を迎え、歯科診療のあり方は、歯科診療所においてのみ行われるものではなく、在宅への歯科訪問診療や歯科訪問衛生指導・摂食嚥下訓練、入院中の患者への周術期口腔機能管理など、多様に変化をしてきている。そのためには、加齢による変化を理解し、経口摂取の重要性ならびに身体的・心理的特徴と歯科診療上の留意点について理解することが必要である。また、全身の疾病・障害者の種々の障害・全身疾患の現状を把握し、それぞれの歯科的診療時に注意すべき特徴を学び、有病者の歯科治療における歯科衛生士の役割とその実際面の基本的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(3 佐藤昌史／4回) 在宅歯科医療を必要とする高齢者、障がい（児）者および家族の現況および協働する他の職種の役割を理解した上で、歯科衛生士として必要な訪問歯科診療および訪問口腔衛生指導における口腔ケアの方法、留意点について基礎知識を解説する。</p> <p>(4 山田隆文／4回) 在宅歯科診療に必要な、循環器系、呼吸器系、神経系、代謝系疾患や、周術期を含むがん等の種々の全身疾患について、その病態や症状を理解し、診療時の留意事項や、診療補助の実際、家族を含めた患者指導の方法についての基本的な知識を解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門教育</p> <p>専門 発展 科目</p>	<p>医療福祉連携活動論</p>	<p>(概要) 歯科衛生士が人びとの健康を支援するためには、医療福祉およびその他の多職種と連携した活動が必要である。地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を理解するとともに、他職種の活動を理解する。また、歯科衛生士が他職種から何を期待されているのかを知り、連携に必要な知識、技術、態度を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(5 中野恵美子／2回) 地域包括ケアシステムおよび地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を理解する。</p> <p>(16 矢野秀典／1回) 医療機関および地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解する。</p> <p>(22 佐藤彰紘／1回)</p>	<p>オムニバス方式</p>

科目目	科目目		<p>医療機関および地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割を理解する。</p> <p>(13 立石雅子／1回) 医療機関および地域包括ケアシステムにおける言語聴覚士の役割を理解する。</p> <p>(17 板山稔／1回) 医療機関および地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。</p> <p>(20 福嶋忍／1回) 地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割を理解する。</p> <p>(21 天野由以／1回) 地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割を理解する。</p>	
専門教育科目	専門発展科目	歯科衛生セミナー	<p>本科目では、2年間の各講義、実習で学んだ知識を集大成し、1年間をかけて研究テーマに取り組む。知識習得型の授業から一歩進み、問題を発見し解決するためのスキルや方法を本科目を通じて学ぶが、概括して以下の能力を養成する狙いがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会に求められている物事や解決すべき問題を理解したうえで研究テーマを考える。 2. 情報を収集・分析し、情勢と制約の変化に柔軟に対応し、解決すべき問題の発見とその解決法を見いだす。 3. 研究を遂行するにあたり、収集した情報を適切な方法により分析し、その情報が持つ意味やその中に潜在する問題点を読み取る。 4. 科学技術に関する知識や情報を統合し、研究を遂行するための道具として活用する。 5. 歯科医学、医学、自然科学をはじめとした研究基盤となる知識を広く習得する。 6. 習得した知識・技術と収集した情報を統合し、研究テーマを遂行する。 7. 研究遂行にあたり、外界の情報を的確に捉え、情勢と制約の変化に柔軟に対応しながら、自主的に研究をまとめ上げる。 8. 得られた結果の意味を考え、わかりやすく提示する。 	

学校法人目白学園 認可設置等に関わる組織の移行表

平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
目白大学 <small>全て3年次</small>				目白大学 <small>全て3年次</small>					
人間学部				人間学部					
心理カウンセリング学科	120	10	500	心理カウンセリング学科	120	10	500		
人間福祉学科	100	10	420	人間福祉学科	100	10	420		
子ども学科	140	10	580	子ども学科	140	10	580		
児童教育学科	50	-	200	児童教育学科	50	-	200		
社会学部				社会学部					
社会情報学科	120	5	490	社会情報学科	120	5	490		
地域社会学科	80	5	330	地域社会学科	80	5	330		
メディア学部				メディア学部					
メディア学科	140	-	560	メディア学科	140	-	560		
経営学部				経営学部					
経営学科	130	5	530	経営学科	130	5	530		
外国語学部				外国語学部					
英米語学科	80	5	330	英米語学科	80	5	330		
中国語学科	40	-	160	中国語学科	40	-	160		
韓国語学科	60	-	240	韓国語学科	60	-	240		
日本語・日本語教育学科	40	-	160	日本語・日本語教育学科	40	-	160		
保健医療学部				保健医療学部					
理学療法学科	85	-	340	理学療法学科	85	-	340		
作業療法学科	60	-	240	作業療法学科	60	-	240		
言語聴覚学科	40	-	160	言語聴覚学科	40	-	160		
看護学部				看護学部					
看護学科	105	-	420	看護学科	105	-	420		
計	1390	50	5660	計	1390	50	5660		
目白大学大学院				目白大学大学院					
国際交流研究科				国際交流研究科					
国際交流専攻(M)	20	-	40	国際交流専攻(M)	20	-	40		
心理学研究科				心理学研究科					
現代心理学専攻(M)	20	-	40	現代心理学専攻(M)	20	-	40		
臨床心理学専攻(M)	30	-	60	臨床心理学専攻(M)	30	-	60		
心理学専攻(D)	3	-	9	心理学専攻(D)	3	-	9		
経営学研究科				経営学研究科					
経営学専攻(M)	20	-	40	経営学専攻(M)	20	-	40		
経営学専攻(D)	3	-	9	経営学専攻(D)	3	-	9		
生涯福祉研究科				生涯福祉研究科					
生涯福祉専攻(M)	20	-	40	生涯福祉専攻(M)	20	-	40		
言語文化研究科				言語文化研究科					
英語・英語教育専攻(M)	10	-	20	英語・英語教育専攻(M)	10	-	20		
日本語・日本語教育専攻(M)	10	-	20	日本語・日本語教育専攻(M)	10	-	20		
中国・韓国言語文化専攻(M)	10	-	20	中国・韓国言語文化専攻(M)	10	-	20		
看護学研究科				看護学研究科					
看護学専攻(M)	15	-	30	看護学専攻(M)	15	-	30		
リハビリテーション学研究科				リハビリテーション学研究科					
リハビリテーション学専攻(M)	15	-	30	リハビリテーション学専攻(M)	15	-	30		
計	176	-	358	計	176	-	358		
目白大学短期大学部				目白大学短期大学部					
生活科学科	75	-	150		0	-	0	<small>平成31年4月学生募集停止</small>	
製菓学科	70	-	140	製菓学科	55	-	110	<small>(定員変更 △15)</small>	
ビジネス社会学科	75	-	150	ビジネス社会学科	75	-	150		
				歯科衛生学科	60	-	180	<small>学科の設置(認可申請)</small>	
計	220	-	440	計	190	-	440		